

あいち病害虫情報 最新情報

平成 21 年 4 月 17 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ムギ類赤かび病に注意！

ムギ類赤かび病の防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。本年のコムギの出穂期は平年より3日ほど早くなっており、すでに多くのほ場で赤かび病の防除適期を迎えています。本日発表の週間天気予報によれば、向こう一週間は、期間の中頃に低気圧や湿った空気の影響で、曇りで雨の降る日があり、その他は高気圧に覆われて概ね晴れる見込みとなっています。最高気温および最低気温は、平年並か平年より高く、降水量は平年より多い見込みで、感染の好適条件となるおそれがあります。天候の推移に注意しながら、穂が出そろったほ場から順次防除を進めましょう。

水稻の育苗期防除

普通栽培の播種作業が始まります。次の点に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 稔実不良もみは病原菌が付いている可能性が高いので、塩水選により取り除く。
- 2 細菌性病害に効果のあるスターナ水和剤やテクリードCフロアブルなどを加えて、種子消毒を行う。
- 3 薬液温度は15～20℃とし、処理濃度と時間を守って、薬剤処理する（浸漬処理法の場合）。処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾する。
- 4 高温浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避ける。
- 5 出芽温度は30～32℃を守って、出芽器の中で長時間加温しないようにする。
- 6 種子消毒後の廃液は、適正に処理する。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理しましょう。

浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょう。また、温湯種子消毒やエコホープドライなどの微生物農薬を利用するのも良い方法です。ただし微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が低いと効果が劣る場合があるので、注意しましょう。また、温湯種子消毒を行う際は、適切な処理温度、時間を守りましょう。

果樹カメムシ類は平年並！

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の飛来数は越冬成虫量と前年のスギ・ヒノキ科花粉飛散総数でおおよそ予測できます。今年の果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬成虫量は平年並です。また、前年のスギ・ヒノキ科花粉飛散総数はやや少な目でした。そのため、ウメやモモ等に飛来する果樹カメムシ類の数は平年並みと予測できます。詳細は4月3日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

落葉果樹の病虫害

落葉果樹の生育は概ね平年より3から5日早くなっています。品種などにより生育に差が見られますので、生育にあわせた適期防除を心がけましょう。

モモハモグリガの誘殺数は今のところ少ない状況ですが、今後、モモの展葉直後の葉に産卵しますので、落花1週間後を目安に防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代成虫のフェロモントラップにおける誘殺数は、4月に入って急激に増加しました。越冬世代成虫は、今後、展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こしますので、モモハモグリガとともに防除しましょう。

有効積算温度を用いたクワシロカイガラムシの第1世代ふ化予測日は豊田市が5月13日、豊橋市が5月12日です。また、フジコナカイガラムシの第1世代ふ化予測日は、豊橋市が6月4日、岡崎市が6月8日です。防除適期（ふ化時期）を逃さないようにしましょう。

ナシ黒星病は、昨年の発生が多かったため注意が必要です。4月上旬の発病花そう基部率調査で発生を確認することはまれですが、今年は調査した32ほ場中2ほ場で発生を確認しています。降雨が続くと発生が増えるおそれがありますので注意しましょう。

ナシ赤星病の冬胞子層は、すでに成熟して小生子の飛散も始まっています。開花後の防除適期を逃さないように注意し、降雨が続く場合は、黒星病などとともに防除を行いましょう。

ブドウ黒とう病は、展葉初期から新梢伸長期に降雨が続くと多発しやすくなります。伝染源である前年の罹病枝や巻きひげは、切り取って適切に処分するとともに、適期防除を心がけましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を施設内に入れない、施設内で増やさない、施設外に出さないの3つです。次作の感染源を減らすためにウイルス媒介虫を施設外に出さないことを徹底しましょう。

トマト黄化葉巻病が発生している施設では、収穫終了後、残さを持ち出す前に施設を密閉してウイルスを媒介するタバココナジラミを死滅させましょう。

キュウリ黄化えそ病の発生が多く施設で見られます。自然換気が行われる時期ですが、施設開口部にはネット等を張り、施設外にミナミキイロアザミウマを出さないようにしましょう。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820